

第2章 文化財の概要

1. 既往の文化財把握調査の概要

本市では、これまで文化庁、京都府、京都府立丹後郷土資料館による調査、個人・団体による調査等のほか、旧町の町史編さんに伴う調査が行われています。また京丹後市発足後の平成17～29年度には、京丹後市史編さん事業を実施し、本文編2冊、資料編12冊を発刊しました。市史編さん事業では、過去の調査を踏まえた様々な方法で調査を実施して、市内の自然遺産、歴史遺産の特徴を明らかにしました。

一方、過去の調査では、認識されなかった文化財もあります。地域で大切にされている文化財を対象とした調査として、平成16年(2004)に久美浜町域の地域資源情報を調査した『守り継がれるむらの自然と歴史 ふるさと資源大事典～集落資源調査報告書【第2次】』があります。峰山、大宮、網野、丹後、弥栄町域については、平成26～27年(2014～2015)に地区ごとに地域資源情報をまとめた「ふるさと わがまち わが地域」が作成され、市ホームページに公開されています。これらの地域資源情報には、従来の調査で知られていないものも含まれており、大変貴重な情報となっています。

さらに、地域計画の作成にあたっては、各区を対象としてアンケート調査を実施し、さらなる地域資源の把握に努めました。以上を踏まえ、類型別の把握調査の現状と課題を表2-1にまとめました。さらに、類型別の把握状況を表2-2に整理しました。

表2-1 類型別の文化財把握調査の現状と課題

類型	類型別の把握調査の現状と課題	
有形文化財	建造物(寺院建築等及び神社建築等)	市史で神社本殿、寺院本堂など主要な建造物と棟札の悉皆調査を実施し、町ごとの建築調査報告書がある。若干の漏れが見受けられるほか、境内摂社や小堂の大部分は未調査。
	建造物(石造物)	宝篋印塔、鳥居等のうち一部の在銘石造物等は研究者による調査報告が、大宮町域は町誌編さん時の所在調査が行われているが、いずれも現存確認が十分ではない。
	建造物(その他)	民家は、府や市史の調査があるが、現存確認が十分でない。土木構造物や近代建築物は府や市史の調査で主要なものは把握できているが、現存確認や把握調査が十分ではない。
	美術工芸品(絵画・彫刻・工芸品)	府や市史の調査で主要なものは把握できているが、所在確認や悉皆調査は十分ではない。石造狛犬や石灯籠等は、建造物と同様、主要なものを把握しているが、現存確認や把握調査が十分ではない。
	美術工芸品(書跡・典籍・古文書・歴史資料)	中世文書は数が少なく、大部分を把握している。近世・近代文書の残りは良く、府や市史で主要なものを把握しているが、悉皆調査や目録作成が十分ではない。近代行政文書は、大部分の簿冊目録を作成し所在把握しているが、件名目録の作成に至っていない。古地図は、市史の調査で主要なものを把握、撮影を行ったものの、把握調査は十分でない。
	美術工芸品(考古資料)	市史の調査で、過去の調査資料の整理を行った。今後、発掘調査による増加が見込まれる。
無形文化財(工芸技術)	丹後ちりめんの技術資料に関しては、昭和期の試織見本帳などの所在把握ができている。しかし、実物資料の所在把握や収集は十分でない。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	堂、祠は把握調査を行ったが、現存確認が十分ではない。神輿、絵馬、土俵、芝居舞台等は把握調査が十分ではない。奉納和船は、府の調査によりおおむね把握できている。
	無形の民俗文化財	民俗芸能や伝統行事は、府や市史の調査で把握調査や一部地域の詳細調査を実施しているが、悉皆調査と映像記録作成は十分でない。方言・伝説・伝承・民謡等は、すでに失われたものが多いが、過去の府や郷土史団体等の調査によりおおむね把握が出来ている。郷土料理は、百歳長寿レシピの調査により、現在に伝わるものはおおむね把握できている。
記念物	遺跡	古墳・墳墓・散布地等は、周知の埋蔵文化財包蔵地として把握している。山林寺院や製鉄遺跡、古道などの把握は十分にできていない。震災記念碑は、市史の調査で把握している。
	名勝地	ジオパーク関連、文化庁調査により主要なものは把握できている。
	動物・植物・地質鉱物	動植物については十分な把握ができていない。巨樹・巨木は、緑の少年団、宮津天橋高等学校の調査により詳細把握ができています。地質鉱物、地形等は、ジオパーク関連調査、市史の調査で主要なものは把握できている。
文化的景観	文化庁調査により主要なものは把握できているが、全市的な把握には至っていない。	
伝統的建造物群	市史の調査で主な漁村、農村集落を調査したが、全市的な把握には至っていない。	

表 2-2 類型ごとの把握状況

類型			把握状況	類型			把握状況	
有形文化財	建造物	寺院建築等	○	記念物	遺跡	貝塚・集落跡・散布地	△	
		神社建築等	○			古墳・墳丘墓	○	
		住宅等	△			城館跡他	△	
		近代建築物	△			社寺跡他	×	
		土木構造物	△			学校跡他	△	
		石造物	△			墳墓及び碑(中世以降)	△	
		その他建造物	△			街道・生産施設他	×	
	美術 工芸品	絵画	△			旧宅・園池その他特に由緒のある地域	△	
		彫刻	△			災害記念碑・供養塔	○	
		工芸品	△			その他の記念碑	△	
		書跡・典籍	△			その他の遺跡	△	
		古文書	△			名勝地	公園・庭園	△
		考古資料	○				花樹・紅葉等	△
		歴史資料	△				砂丘・海浜	○
無形文化財			×	山岳・丘陵	○			
民俗文化財	有形の 民俗 文化財	寺院等	△	峡谷・瀑布	○			
		神社等	△	岩石・洞穴	○			
		堂・祠等	△	湖沼・浮島・湧泉	○			
		信仰(奉納物等)	△	展望地点	△			
		民俗芸能・娯楽・遊戯	○	動物・ 植物・ 地質 鉱物	畜養動物	△		
		生活・衣食住	△		動物の棲息地	△		
		生産・交通	△		名木・巨樹	○		
		その他有形の民俗文化財	○		巨木林・社叢	○		
	無形の 民俗 文化財	年中行事・祭礼・法会等	△		原始林他特殊な植物相等	△		
		民俗芸能(三番叟等)	△		変動地形・地層	○		
		口承文芸・民間伝承・民謡	○	岩石・鉱物及び化石	○			
		食習俗・技術	△	温泉	○			
		民俗技術	×	海岸地形	○			
					その他地形	○		
文化的景観			△	伝統的建造物群			△	

【凡例】

- ：概ね把握が出来ている
- △：部分的に把握出来ている
- ×：ほとんど把握出来ていない

2. 文化財の指定等の状況

2-1. 指定等文化財

令和4年（2022）4月現在の指定等文化財の件数は合計275件であり、その内訳は表2-3のとおりです。文化財の種別ごとにとみると、建造物が89件と最も多く、絵画35件、遺跡28件、考古資料23件と続いています。近年、指定等文化財となったものは、峯山藩主京極家墓所（令和2年府指定史跡）、三嶋田神社石造物2件（石造地藏菩薩立像等、令和2年市指定有形文化財）、銅造飲食器（令和2年市指定有形文化財）などです。（指定等文化財の一覧は資料編に掲載）

表 2-3 指定等文化財の件数(令和4年4月現在)

区分	国				府					市	合計		
	指定	選定	登録	選択	指定	登録	選定	暫定登録	決定	指定			
有形文化財	建造物	2		13		5	5		52		12	89	
	美術 工芸品	絵画	0				3	7		10		15	35
		彫刻	2				2	0		0		14	18
		工芸品	1				4	0		0		14	19
		書跡・典籍	0				0	0		0		3	3
		古文書	0				1	1		3		1	6
		考古資料	2				6	1		5		9	23
		歴史資料	0				1	0		0		1	2
無形文化財	0	0		0	0	0				0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	0		0		0	0		3		1	4	
	無形の民俗文化財	0		0	1	3	11				3	18	
記念物	遺跡(史跡)	5				7	0		0		16	28	
	名勝地(名勝)	1※1				2※2	0		0		3※3	6	
	動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	2※1		0		2※2	1		0		12※3	17	
文化的景観		0					2				2		
伝統的建造物群		0									0		
文化財環境保全地区									3	2	5		
合計	15	0	13	1	36	26	2	73	3	106	275		

※1 うち1件は重複指定。(琴引浜は、名勝及び天然記念物)

※2 うち1件は重複指定。(立岩は、名勝及び天然記念物)

※3 うち1件は重複指定。(五色浜周辺は、名勝及び天然記念物)



図 2-1 指定等文化財の分布



2-2. 日本遺産

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

京丹後市では、平成 29 年 (2017) 4 月に宮津市・与謝野町・伊根町とのシリアル型として『300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』が日本遺産に認定されました。市内では、絹の碑、丹後ちりめん、八丁撚糸機、網野弥栄の機屋の町並み等計 14 件が構成文化財となっています。そのうち、網野神社の本殿・拝殿・蚕織神社などの建物が国の登録文化財となっています。

現在は、京都府北部地域連携都市圏振興社 (海の京都 DM0) が中心となり日本遺産を活かした地域振興に取り組んでいます。

●『300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』ストーリー

京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガチャガチャという機織りの音。

丹後は古くから織物の里であり、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきた。

この地は今も着物の生地の約 6 割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機場が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約 300 年に渡る織物の歴史と文化を体感できる。

引用：日本遺産 丹後ちりめん回廊の旅公式ウェブサイト



図 2-2 京丹後市内の日本遺産の構成文化財

参考：日本遺産 丹後ちりめん回廊の旅公式ウェブサイト

表 2-4 京丹後市内の日本遺産の構成文化財

	文化財の名称	ストーリーの中の位置づけ
1	絶の碑	奈良の正倉院に天平 11 年(739)に「丹後国竹野郡鳥取郷」と記された絹織物「絶」が保存されていることから、当地に顕彰碑が建立され、先人に感謝し、丹後ちりめんの発展を祈願する顕彰祭が行われる。
2	丹後ちりめん	緯糸に強い撚りをかけた生糸を使い、生地に細かい凸凹状の「シボ」がある織物。しなやかな風合いで、発色性に富むのが特徴。江戸時代に峰山の絹屋佐平治と、加悦谷の手米屋小右衛門、山本屋佐兵衛、木綿屋六右衛門が京都西陣から技術を習得し発祥した。
3	八丁撚糸機	丹後ちりめんの特徴の「シボ」と呼ばれる細かい凸凹を生み出すため、水を注ぎながら糸に撚りを掛ける機具
4	禅定寺	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治が京都の西陣の技術習得を祈願し、佐平治が最初に織ったちりめんとされる「縮布」が奉納されている。
5	常立寺	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治(後に森田治郎兵衛と改名)の墓碑があり、現在も同氏の功績をたたえる慰霊祭が行われる。
6	金刀比羅神社	丹後ちりめんの繁栄が財政を支えた峰山藩の藩主の京極家が創建し、ちりめんの繁栄を背景に、広大な神域や多くの社殿群を有し、華やかな屋台行事が行われる。境内の糸商人や養蚕家が建立した木島神社には、養蚕の大敵であるネズミを退治する狛猫がある。
7	丹後織物工業組合中央加工場	丹後ちりめんは、かつては精練(湯で煮て絹糸の表面のタンパク質(セリシン)を取り除く工程)されず京都の間屋へ出荷されたが、昭和初期に、地元で精練と検査を行う国練検査制度を開始。現在も本工場で精練・検品を経て、丹後ちりめんとして出荷される。
8	足米機業場	網野(京丹後市)にある織物工場で、昭和初期のノコギリ型の三角屋根のある織物工場特有の建物が残る。
9	網野・弥栄の機屋の町並み	丹後ちりめんの工場の多くは、住宅に小規模な機屋を併設して行う家内工業的な形態であり、網野町浅茂川や弥栄町和田野地区には、こうした機屋が点在している。
10	丹後ちりめん小唄	昭和 10 年(1935)に、丹後ちりめんの宣伝のため、新たに作られた唄でお座敷唄としても唄われた。
11	京丹後ちりめん祭	約 70 年に渡り続く、丹後ちりめんによるファッションショーなどの着物の魅力を発信・体感する祭典
12	吉村家住宅、吉村家別荘[桜山荘]	吉村家は、天保元年(1830)から続くちりめん商家で、4 代目の吉村伊助氏は、地元での精練と検査制度の開始など、丹後ちりめんの発展に尽力した。「吉村家住宅」は昭和初期の建物で、現在も吉村商店の店舗として使用されている。吉村家の別荘である「桜山荘」は、吉村伊助氏が、大正 8 年(1919)に建築した荘厳な建物で、ちりめんによる繁栄を物語っている。
13	網野神社、蠶織神社	網野神社の境内にある蠶織神社は、大正 14 年(1925)に、地元のちりめんと養蚕の関係者が織物と養蚕の神を奉祀したもので、毎年4月には、地元の織物関係者が祈願祭を行い、丹後ちりめんを奉納している。
14	丹後ばらずし	鯖のおぼろを使うのが特徴的な郷土料理で、丹後ちりめに所縁のある「三河内曳山祭」などの丹後地域の祭りや祝い事などの「ハレの日」に、各家庭で作られる。

3. 未指定文化財の概要

京丹後市において現在把握している未指定文化財は合計 6,094 件あります。その内訳は表 2-5 のとおりです。

図 2-5 未指定文化財の一覧(1/2)

分類		峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	分散	全域	合計	
有形文化財	建造物	寺院建築等	29	37	24	20	18	56			184
		神社建築等	71	19	24	73	17	178			382
		住宅等	3	3		3	1	4			14
		近代建築物	12	11	2	2	2	4			33
		土木構造物	12	4	1	4	6	15			42
		石造物	2		1	8	2	6			19
		その他建造物			1						1
	美術 工芸品	絵画	22	11	2	3	1	172			211
		彫刻	6	2	11	14	8	47			88
		工芸品	6	3	2	4	4	12			31
		書跡・典籍	1	4			1	48			54
		古文書	2	3		1		17			23
		考古資料	1	1		67		7	36		112
歴史資料	2	1							3		
無形文化財									1	1	
民俗文化財	有形の 民俗 文化財	寺院等	23	22	20	22	20	44			151
		神社等	41	42	74	83	62	140			442
		堂・祠等	15	24	20	17	22	65			163
		信仰（奉納物等）	6		1	4	2	10			23
		民俗芸能・娯楽・遊戯			2	1		1			4
		生活・衣食住	1							1	2
		生産・交通				1		2		1	4
		その他有形の民俗文化財					2				2
	無形の 民俗 文化財	年中行事・祭礼・法会等	16	16	27	40	25	107			231
		民俗芸能（三番叟等）	8	27	9	17	9	21			91
		口承文芸・民間伝承・民謡	46	683	73	403	35	129		171	1,540
		食習俗・技術	1				2			52	55
		民俗技術				1	1	2			4

図 2-5 未指定文化財の一覧(2/2)

分類		峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	分散	全域	合計	
記念物	遺跡	貝塚・集落跡・散布地	5	20	7	8	5	10			55
		古墳・墳丘墓	42	32	30	17	58	62			241
		城館跡他	50	53	46	32	41	50			272
		社寺跡他	1	7	1	4	3	15			31
		学校跡他						2			2
		墳墓及び碑（中世以降）	5	9	3	1	3	19			40
		街道・生産施設他	7	11	2	1	2	25			48
		旧宅・園池その他特に 由緒のある地域	1			1		4			6
		災害記念碑・供養塔	7	3	9	4	5	2			30
		その他の記念碑	1	1	2	1	1	1			7
		その他の遺跡	1			1	1	1			4
	名勝地	公園・庭園	1	1	3	1		4			10
		花樹・紅葉等						2			2
		砂丘・海浜			5	5		3		1	14
		山岳・丘陵	2		5	4		4			15
		峡谷・瀑布			2	1	2	10			15
		岩石・洞穴			7	7		5			19
		湖沼・浮島・湧泉		1	6	1		32			40
		展望地点						12			12
	動物・ 植物・ 地質 鉱物	畜養動物				1					1
		動物の棲息地	1	1	2	1	1	3			9
		名木・巨樹	172	222	97	222	209	309			1,231
		巨木林・社叢	2	1		1		4			8
		原始林他特殊な植物相等		1	1			8			10
		変動地形・地層			1		1				2
		岩石・鉱物及び化石	1	2		2	2	4			11
		温泉			3			1			4
		海岸地形			6	8		2			17
		その他地形		1	1	1	1	1			5
	文化的景観					3		3		1	7
	伝統的建造物群			1	5	7		1			14
	環境保全地区		1	1							2
	合計		626	1,281	538	1,123	575	1,687	36	228	6,094

4. 文化財の概要

4-1. 有形文化財

(1) 建造物(寺院建築等)

寺院建築には、本堂・庫裏・門（山門・仁王門・鐘楼門など）・塔（多宝塔等）、鐘楼などがあります。市域の寺院は、禅宗系（曹洞宗・臨済宗）、特に曹洞宗寺院が多く分布します。標準的な寺院本堂の平面形式は、三室を前後に配した六間取りで、中央奥の「仏間」に仏壇を安置します。仏間の奥には、位牌の間が突出することがあります。仏間左右の「上間」、「下間」には床や付書院が設けられており、接客の空間であるとともに、住職が常駐する部屋でもあります。また、仏間の前にある室中は、法要などでの重要な場となります。

市域で最も古い寺院建築は、鎌倉時代後期の本願寺本堂（久美浜町十楽）です。その後は、江戸時代後期以降に建立された寺院建築が多く残っています。一方、郷村断層帯に近い地域では昭和2年（1927）の丹後震災で被害を受けた例が多くみられ、震災後に古材を用いて再建した場合があります。「船木の通り堂」（弥栄町船木）は、禅勝寺の門とも伝え、かつては道の上に建物が建っており、行人は通り堂の中を歩いていました。

(2) 建造物(神社建築等)

神社建築には、本殿、本殿上屋、拝殿、割拝殿、絵馬舎、舞台、社務所などがあります。現存する17世紀に建立された社殿は、寛文9年（1669）の売布神社本殿（網野町木津）のみです。ついで、18世紀代建立の社殿としては持田神社本殿（久美浜町壱分）、安永7年（1778）の愛宕神社本殿（峰山町五箇）、天明2年（1782）の蚕織神社本殿（網野町網野）、寛政3年（1791）頃の志布比神社本殿（丹後町大山）などがあります。ほかには江戸時代後期以降の建立であり、特に多いのは万延元年（1860）以降のものであります。

市域で最も多い社殿形式は流造ですが、峰山町周辺では春日造が目立ちます。流造、春日造ともに、軒唐破風を設けるものが多いのが特徴です。この唐破風の妻部分に籠の彫刻を用いる神社が多くみられ、中には丹波柏原（兵庫県丹波市）の彫物師・中井氏による例もあります。

なお近代の社殿では、大宮町を中心に神明造の本殿がいくつか見られます。さらに、昭和2年（1927）の丹後震災後の社殿の復興にあたっては、本殿と拝殿を渡廊でつなぐ連結型へ社殿形式の統一化も進みました。

(3) 建造物(住宅等)

民家は、平入で広間型三間取りを基本とし、土間に面した「ダイドコロ」の上手に「オモテ」と「ヘヤ」を並べる「丹後型民家」が広く分布しています。戦後の高度経済成長期までは、養蚕を行う家が多くありました。また市域は、西南日本的な隠居習俗である別宅隠居の日本海側の東限とされ、近年は薄れつつあるものの、同じ敷地内に母屋と離れがある世帯が多く見られる点が特徴です。

大宮町五十河地域は、近世末期から明治期に建てられた民家が多数残る農村集落です。現在は多くが「田」の字形の四間取りになっていますが、かつては丹後型の広間型三間取りであったと考えられます。屋根は、内山ブナ林の林床に生えているチマキザサを使った笹葺が多くみられましたが、現在、旧田上家住宅以外は、笹葺屋根にトタンをかぶせるか瓦葺屋根へと転換しています。

沿岸地域の漁村集落では、狭小な宅地が多いことから、丹後型民家の形を基本とした前土間型二

間取りの平面形式をもつ独自の家屋形式ができあがりました。このように、丹後型民家の形式を基本としつつも地域によって独自の特徴を持つ民家がみられます。

久美浜一区は、大正14年(1925)の北但馬地震と昭和2年(1927)の丹後震災に被災したため、多くの町家はその後の建築です。しかし両震災ともに、火災がほとんど発生しなかったことが幸いし、近世後期や明治期の町家も残っています。町家には、一列三間取り型と一列二間取り型の大きく2種類があります。北但馬地震の時期には茅葺と瓦葺が混在した町並みでしたが、現在では瓦葺の二階建て町家が並ぶ町並みへと変化しています。近年、飲食店にリメイクした浜茶屋は、町並みで唯一の震災前に建築された三階建ての建物で、かつては旅館でした。

(4) 建造物(石造物)

宝篋印塔や五輪塔、石鳥居などの石造物は、寺社を中心に広く分布しています。

中世の宝篋印塔は、正平6年(1351)の縁城寺(峰山町橋木)、永徳元年(1381)の上山寺(丹後町上山)、室徳4年(1387)の野中区(弥栄町野中)が代表例です。室町時代以降のものは市域各地にあり、江戸時代以降は寺院境内を中心に見られます。五輪塔は、永禄6年(1563)の長福寺(大宮町奥大野)、同8年(1565)の上山寺のものが代表例で、小型で無銘の五輪塔は市域全域に分布します。

石鳥居は、江戸時代以降のものが残っています。最も古い17~18世紀のものとしては、元禄8年(1695)の稲代吉原神社(峰山町安)、宝永3年(1706)の三嶋田神社(久美浜町金谷)、同4年(1707)の神谷神社(久美浜町新町)などがあります。

(5) 建造物(近代建築物、土木構造物、その他建造物)

市域には、昭和2年(1927)に発生した丹後震災の復興建築がいくつか残っています。代表的なものとして、昭和4年(1929)、鉄筋コンクリート造の丹後震災記念館(峰山町室)、峰山小学校(峰山町不断)があり、いずれも京都府技師の一井九平により設計されました。また峰山税務署として建築された峰山商工会館(峰山町杉谷)も同時期の鉄筋コンクリート造の建物です。その他、木造建築では、昭和5年(1930)建造の旧口大野村役場庁舎(大宮町口大野)、平成23年(2011)に改装・修景が行われた久美浜町公会堂(久美浜町東本町)、昭和7年(1932)建造の旧久美浜町役場庁舎などがあります。特に丹後震災記念館は、震災直後に全国から集まった義援金の一部を用い、京都府が建設したものです。講堂には、昭和11年に伊藤快彦が描いた3枚の震災画があります。国内で震災記念館として現存するものは、関東大震災の震災記念堂・復興記念館(東京都墨田区)、濃尾地震の震災記念堂(岐阜市)と丹後震災記念館の3館に留まるため、大変貴重なものです。

丹後ちりめんや醤油業など地域の産業に関連する工場施設や、戦時中の峰山海軍航空隊(河辺飛行場)に関連する格納庫、弾薬庫、火薬庫(峰山町新町)なども特筆すべき近代建築物として挙げられます。

土木構造物には、丹後震災の復興の過程で建設された大橋(峰山町浪花)などの「震災復興橋」や堰堤などがあります。また、峰山海軍航空基地(河辺飛行場)に関連する土木遺構(マンホールや水路、海軍橋)もみられます。その他、各区の生活用水となっている井戸や、戦前に造られた手掘りの須川トンネル(弥栄町須川)などの隧道等も現存しています。

(6) 美術工芸品(絵画)

絵画は、中世以来の古い作品が多数残っており、①仏画、②大江山鬼退治図、③肖像画、④障壁画、

⑤異種配合三幅対、⑥山水・故事・その他の大きく6つに分類されます。このうち①～④は次の通りです。

①仏画は、如来像、菩薩像、明王像、曼荼羅図、天部像に細分されます。如来像は、鎌倉時代後期の岩屋寺（大宮町谷内）絹本著色釈迦十六善神など。菩薩像は、鎌倉時代後期の岩屋寺絹本著色地藏菩薩像、南北朝期の縁城寺（峰山町橋木）絹本著色如意輪観音像などがあります。明王像、曼荼羅図は、鎌倉時代後期の岩屋寺絹本著色五大尊像、毘沙門天像、本願寺（久美浜町十楽）絹本著色当麻曼荼羅図などがあげられます。天部像は、鎌倉時代後期の岩屋寺の絹本著色毘沙門天像、室町時代の縁城寺絹本著色十二天像などがあります。仏画は、鎌倉時代後期のものが最も古く、室町時代にかけて数が増えていきます。江戸時代に入ると市域全域の寺院に数多く見られ、涅槃図や釈迦十六善神像のように年に1度は使用されているものもあります。

②大江山鬼退治図は、麻呂子親王の鬼退治伝承を描いた竹野神社（丹後町宮）の紙本著色等楽寺縁起、齋明神縁起のほか、源頼光の酒吞童子退治を描いた岩屋寺の大江山鬼退治絵巻などがあります。本市に伝わる伝承を描いたものとして特筆されるものです。

③肖像画は、戦国時代に描かれた宗雲寺（久美浜町新町）の絹本著色玄圃霊三像、絹本著色松井康之像、宝泉寺（久美浜町湊宮）の絹本著色松井与八郎像、江戸時代に描かれた常立寺の峯山藩歴代藩主肖像画が知られています。このほか禅宗寺院には、住職の肖像画である頂相が残る例があります。これら肖像画は、本市にゆかりのある人物を描いたものとして特筆されるものです。

④障壁画は、江戸時代以降のものが残っています。代表的なものとしては、江戸時代後期に長沢声洲が描いた慶徳院（峰山町五箇）の方丈障壁画、慶応元年（1865）に齋藤崎庵が描いた万松寺（網野町木津）の本堂障壁画などがあります。これらは、寺院ゆかりの人物が描いたものとして特筆されます。

(7)美術工芸品(彫刻)

彫刻には、仏像、神像、狛犬などがあります。

市内最古の仏像は、10世紀代に造られた縁城寺の千手観音菩薩立像です。一木造りで内割を施さないものです。11世紀のものとしては、臨海寺（久美浜町湊宮）の薬師如来坐像、持国天・多聞天立像、正福寺（久美浜町市野々）の菩薩形立像、泰平寺（久美浜町永留）の薬師如来坐像、地藏菩薩立像、延命寺（久美浜町永留）の観音菩薩立像などがあります。12世紀のものとしては、円頓寺（久美浜町円頓寺）の薬師三尊像のほか、全徳寺（峰山町鱒留）の阿弥陀如来坐像、如意寺（久美浜町西本町）の阿弥陀如来坐像、遍照寺（久美浜町大向）の阿弥陀如来坐像など数多く見られます。市域に多く見られる平安時代の仏像の特徴としては、平安京で発達した寄木造が少なく、一木割削造と呼ばれる技法が多く使われる点にあります。このほか、金剛力士像として鎌倉時代の如意寺、円頓寺、文明13年（1481）の仲禅寺のものがあります。

石で造られた石仏は鎌倉時代以降に出現し、江戸時代に入ると大型のものが造られます。平地地藏（大宮町上常吉）は、台座を含む高さが5.3mもある京都府で最大規模の石地藏です。

次に市域の神像には、平安時代前期に造られた大宮売神社（大宮町周積）の女神坐像、平安時代後期の大宮神社（弥栄町野中）の神像などがあります。

狛犬は、木造のものが少数あるほかは、石造のものです。石造の狛犬は、本殿に置かれる小型のものと、境内に独立して立つ大型のものがいます。小型の石造狛犬は、国内最古の文和4年（1355）銘をもつ高森神社（大宮町延利）を筆頭に、室町時代から江戸時代にかけて丹後半島を中心に分布し、

「丹後型狛犬」とも呼ばれています。大型のものは、江戸時代後期以降、市域各地に分布します。その中で、金刀比羅神社の石造狛犬は、狛犬のかわりに猫をモチーフにした狛猫として全国的にみても珍しくユニークなものです。

(8)美術工芸品(工芸品)

工芸品には、寺社の扁額や鰐口、梵鐘、御正体や懸仏などがあります。

寺社の扁額は、寺の門や神社の鳥居に懸ける寺社名を描いた額で、有名な書家が描いたものもあります。木製のものは、如意寺（久美浜町西本町）、大宮売神社（大宮町周枳）など、鎌倉時代にさかのぼるものがあります。一方、金属製のものは、溝谷神社（弥栄町外村）の鉄製扁額や銅製扁額のように、江戸時代以降に見られます。

鰐口は、江戸時代以降のものが現在も使われています。室町時代にさかのぼる例は、加茂神社（網野町木津）、木橋区、八幡神社（丹後町平）、如意寺などがあります。

梵鐘は、太平洋戦争中に戦時供出されたものもあり、江戸時代以前のもものは数少ないです。江戸時代の作例としては、延宝6年（1678）の岩屋寺（大宮町谷内）、同8年の全性寺（峰山町吉原）のものがあります。

御正体と称される鏡像は、12世紀後半の山の神経塚（久美浜町円頓寺）や栃谷経塚（久美浜町栃谷）などの出土例があります。鏡の表面に仏像を線刻するもので、紐を通す孔をあけて壁にかけていました。木橋区（弥栄町木橋）の線刻薬師如来御正体は、鏡に見立てた銅の板に仏像を線刻しています。これらは、銅板に仏像を取り付けた懸仏へと発展します。

懸仏は数が少ないものです。鎌倉時代にさかのぼる事例は、円頓寺の熊野十二社権現懸仏があります。南北朝期から室町時代のものには、現在、奈良国立博物館所蔵となっている上山寺の懸仏があります。ほかには江戸時代以降のものがあります。

(9)美術工芸品(書跡・典籍)

書跡には、墨蹟や経典があります。最も多く伝わるものは、現在も大般若会で使用されている大般若経があります。大部分は江戸時代以降の版本ですが、大宮売神社（大宮町周枳）の大般若経は鎌倉時代の東大寺八幡経のうち一巻です。また延命寺（久美浜町永留）には、中世の大般若経が伝わっています。

典籍は、中世にさかのぼる医学書、陰陽道書、易書などを含む小倉家伝書が代表例です。近世以降の典籍は、版本を中心に数多く残っています。

(10)美術工芸品(古文書)

市域の中世以前の古文書は大変数が少なく、寺社の古文書として本願寺文書、縁城寺文書、戦国時代の土豪が残した古文書として坪倉家文書があります。

一方、近世以降の古文書は、区、寺社や庄屋など有力者の家に伝わったものがあり、市内各地にみられます。区有文書は、吉沢区有文書や堤区有文書を代表として、市域の多くの区に伝わっています。内容は、近世の年貢に関する免状、割付のほか、用水や山の争論関係、絵図などがあります。また明治前期以降町村制施行までの近代文書を含む場合が多く、さらには町村制施行後の区の文書を残す例もあります。庄屋の家に伝わった古文書には、永島家文書、永雄家文書などがあります。また神谷神社に伝わる太刀宮文書は、久美浜村の庄屋で、久美浜代官所の郡中代をつとめた今西家の古文書を含ん

でいます。同じ久美浜村で、久美浜代官所の掛屋（公金預かり）をつとめた稲葉家（稲葉本家）は、近世から近代の約 28,000 点の古文書が残っています。

明治 22 年の町村制施行後の町村の行政文書は、それ以前の古文書と比較すると、残された量が少なくなります。その原因としては、終戦後間もなくに行われた兵事関係史料の焼却処分や、昭和の町村合併時に引き継がれなかった文書の廃棄処分が考えられます。その中で、後に初代網野郷土資料館長となる井上正一の努力により伝わった木津村役場文書のほか、丹波区有文書（丹波村役場文書）、昭和の合併時に網野町へ引き継がれて残った浜詰村役場文書など、近代行政文書が残っています。これらの史料には、丹後震災後の救護、復旧に関するものや、兵事関係文書が含まれており、当時の行政や市民生活を考える上で大変貴重なものです。

(11) 美術工芸品(歴史資料)

歴史資料は、古文書、典籍、肖像画といった複数分野の史料を含む資料群です。

玄圃霊三関係資料は、宗雲寺を再興し、後に南禅寺（京都市左京区）の住持となった玄圃霊三に関する史料群です。古文書のほか、肖像画、文芸資料などを含みます。

また大正から昭和前期に郡町村誌を数多く執筆した郷土史家永浜宇平は、母校の三重小学校に直筆原稿や書籍を寄贈しました。これらの史料も歴史資料の一つといえます。

(12) 美術工芸品(考古資料)

市域では、上野遺跡（丹後町上野）から旧石器時代の石器が見つかり、約 36,000 年前に人々が生活していたことがわかりました。その後、縄文時代早期末には、内陸部で数十片出土している押型文土器や 3 本の有形尖頭器が見つっています。縄文時代の集落遺跡からは、魚や鯨などの動物や栗やクルミなどの植物などが出土しており、当時の豊かな食生活を伝えています。弥生時代に入ると、農耕文化も伝わり、村としてのまとまりも出てくることから、石器や土器の種類が豊富になるとともに、武器や装身具、それらを製造する原料なども出土しています。原料の中でもガラスや鉄は当時日本では製造できなかったと考えられており、朝鮮半島や中国とのつながりがあったことが分かります。弥生時代後期から古墳時代にかけての墳墓や古墳からは、大陸から伝わったとみられる豪華な副葬品（ガラス玉や頭飾り、鏡など）や埴輪、土器類等が豊富に出土しています。奈良・平安時代には塩や鉄、須恵器など様々な生産施設が営まれ、それに関連する遺物が多数出土しているほか、仏教寺院跡では瓦や墨書土器等が出土しています。

4-2. 無形文化財

市域の無形文化財として現在確認されているのは、丹後ちりめんです。丹後ちりめんとは、緯糸に強撚糸を使用して織られ、精練加工を経ることで生地表面にシボと呼ばれる凹凸が生まれる後染め織物の総称です。300 年以上の歴史があり、現在でも新たな価値を生み出し続けており、日本遺産にも認定されています。

4-3. 民俗文化財

(1) 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財には、民具、信仰関係資料などがあります。

高度経済成長期以前を中心とする生活道具類（民具）には、衣類、農具、漁撈道具、養蚕の道具、

織機、林業の道具、食器類、家具・調度類などがあります。ほかに鍛冶屋や大工など職に関する道具類があります。

信仰関係資料は、さまざまなものがあります。建物としては、住民の身近な信仰対象である祠のほか、地蔵堂や薬師堂などの辻堂などがあります。また溝谷神社（弥栄町外村）や蛭見神社（久美浜町湊宮）などに残る北前船を模した奉納和船は、航海の安全祈願のために奉納されたものです。

この他には、神社境内にある建物で、民俗芸能や芝居が行われる舞台や、民俗芸能で用いられる道具類があります。

(2)無形の民俗文化財(民俗芸能)

本市では、江戸時代の「村」を単位とする生活共同体である区を単位として、地域性に富む様々な祭礼・行事が継承されています。各地の氏神祭りでは、さまざまな民俗芸能や祭礼行事が行われています。

本市の民俗芸能は、①中世の風流の古態を偲ばせるような芸能 ②笹ばやし ③三番叟 ④獅子神楽 ⑤太刀振り ⑥そのほか に分類されます。

①には、野中の田楽（弥栄町野中）、黒部の踊子（弥栄町黒部）、舟木の踊子（弥栄町船木、休止中）、竹野のテンキテンキ（丹後町竹野、休止中）、遠下のちいらい踊り（丹後町遠下、休止中）があります。野中の田楽は、大人と子どもと一緒に演じますが、ほかは子どもだけで演じます。

②笹ばやしは、大宮町、峰山町を中心に分布します。代表的なものとしては、丹波の芝むくり（峰山町丹波）、周木の笹ばやし（大宮町周木）、久次の笹ばやし（峰山町久次）などがあります。これらは、子どもが締太鼓を叩きながら所作を行う点が特徴で、子どもが唄うものと、唄を歌う囃子方に大人が参加するものがあります。

③三番叟は市域各地に分布し、江戸時代の墨書をもつ道具や箱が残る例が多く見られます。子どもを舞手とするものは、周木の三番叟（大宮町周木）、五箇の三番叟（峰山町五箇）、甲坂の三番叟（久美浜町甲坂）があります。ほかは、すべて大人を舞手とします。囃子方はすべて大人が担います。いずれも神前では、神社境内に建つ舞台で奉納しますが、五箇の三番叟は本殿前に仮設の舞台を作って奉納します。なお布袋野の三番叟は、現在、春祭りに奉納されており、また舞手に稲荷が加わる点が特徴です。

④獅子神楽は、大宮町、峰山町、弥栄町を中心に分布します。いずれも伊勢大神楽系のもので、獅子と天狗が登場します。江戸時代後期の記録に登場するものが多く、三曲から四曲を伝えるものが大半です。

⑤太刀振りは、籠神社（宮津市）周辺から伝わった棒太刀系のもので、大宮町、峰山町を中心に分布し、丹後町では宇川地区にのみ分布します。その中で、峰山町久次では、旧太刀と新太刀の二つの太刀振りが伝わっています。笹ばやしにあわせて振る旧太刀は、ほかに例がない芸能で、江戸時代後期にさかのぼるものです。また谷内の太刀振り（丹後町谷内）は、組み太刀と呼ばれるもので、加佐郡（舞鶴市など）の太刀振りに近いものです。

⑥そのほかの民俗芸能として、大山の刀踊り（丹後町大山、休止中）や須田の奴振（久美浜町須田、休止中）があります。

(2)無形の民俗文化財(祭礼行事)

秋祭りに奉納される行事として、屋台行事があります。屋台行事には、①山屋台や芸屋台、②太鼓

台、太鼓輿、だんじりと呼ばれるものの2種類があります。

①山屋台や芸屋台は、金刀比羅神社（峰山町）の秋の祭りで奉納されるものが代表です。かつては、各町で山屋台、芸屋台ともに各 10 基以上が奉納されていました。しかし丹後震災で大半が焼けてしまい、現在は山屋台が3基、芸屋台が2基伝わるのみです。このほか、大野神社（大宮町口大野）の秋祭りに芸屋台1基（明治区）が奉納されています。

②太鼓台・太鼓輿と呼ばれる行事は、鉦打太鼓と2人の打ち手を乗せた屋台を担いで巡行するもので、丹後町、弥栄町、網野町を中心に行われています。これらは、屋台の天井に布団を乗せる点が特徴で、布団のかわりに布団をかたどった板を乗せる場合もあります。間人の屋台行事は、漁師町としてのにぎわいと熱気を現在に伝えるもので、本祭りの午後に屋台どうしがぶつかり合うことから「間人のけんか屋台」と呼ばれています。また神谷神社（久美浜町新町）の秋祭りに奉納される太鼓台は、「空のせ」、「先嵩」という芸を伴うことが特徴です。だんじりは、久美浜町域の春祭りで奉納されるものです。現在は、担いで巡行するものと、曳いて巡行するものがあります。

夏の祭礼行事としては水無月祭があります。市域では、「川すそ祭り」、「川そそ祭り」などと呼ばれています。このほか、夏や秋に、神社境内などで奉納相撲を行う地域があります。

(4)無形の民俗文化財(年中行事等)

正月の年神迎え、餅飾り、餅花、「年取り柿」、狐狩り、ヒヤツカゲ、鬼の宿、各種の講など、かつてはさまざまな行事が行われていました。市域全域に現在も残る行事としては、初詣、互例会、御札立て、七草、ドンド焼き、盆踊り、施餓鬼供養、地藏盆などが挙げられます。また、一部の地域で残る行事としては、日待ち、社日さん、サナボリ、いのこ、秋葉さん、愛宕さんがあります。

このほか、5月4日夜に行われる三重の幟立（大宮町三重）は、その年の新婚夫婦がいる家の前に立てた幟に、地区内の家々から持ち出した家財道具をつるす行事です。翌5日の朝には、新婚夫婦が幟につるされた家財道具を地区内の家々に返却してまわります。また5月5日に行われる市野々の菖蒲田植え（久美浜町市野々）は、子どもたちが稲苗に見立てた菖蒲（シャガ）を準備し、神社境内に設けられた結界の中で菖蒲を投げ上げる行事です。青年たちは、堂の中で苗取り唄と田植え唄を歌います。

7月には、麦わらに火をつけ振り回す「マンドリ」（網野町網野）、「マンドル」（網野町掛津）という行事が行われます。いずれも愛宕信仰との関係が深いものです。また8月23日には、万灯山にやぐらを組んで13の灯をともし河梨の十二灯が行われています。

(5)無形の民俗文化財(食文化)

本市の百寿者率（人口10万人当たりの百寿者人口）は令和3（2021）年1月現在で210.6と全国平均64.9（令和3年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口）の約3.2倍の長寿を誇ります。市内の百寿者への聞き取り調査を行った結果、長い年月の間に、風土に根差した本市の食文化が長寿に結びついていることが明らかになりました。

本市はその地勢から強い風が吹いて海が荒れることもあり、積雪で農地が耕作できない時期もあります。晩秋から冬にかけては「うらにし」と呼ぶ季節風が雨や雪を運んできますが、このような厳しい気象条件のもと、様々な知恵によって多様な保存食が作られてきました。例えば「ぐら」のような水分の多い魚を干物として保存することもあり、海藻も飢饉に備えて乾燥させて保存する習慣がありました。さらに、一般的に干し魚は焼いて食しますが、本市では煮ることで、骨の栄養までも無駄

なく食べられるよう、調理法が工夫されています。このようにして、本市の風土が産んだ食材、それを保存する知恵、食材を無駄なく美味しく食べるための調理法など「食べごとの知恵」がひとつになって、市民の長寿を支えてきました。

野菜の保存食としては、梅干し、大根の糠漬、白菜漬、きゅうりの塩漬、瓜の奈良漬、なすのべった漬、福神漬、いか干し大根（切り干し大根）などがあります。また、野山で採取するワラビやフキなどの山野草は保存したうえで、ヨモギ餅やわらびの塩漬け、山菜おこわなどに調理して食します。秋には、柿を干し、ショウガを漬け込み保存しています。冬には餅づくり、こんにゃくづくり、味噌づくり、醤油づくり、鯛のへしこづくりなどが各家庭で行われます。

また食文化は季節ごとの行事や祭礼などとも深く関わっています。

祭礼の日に食される「丹後のばら寿司」は、丹後を代表する郷土料理です。正月に欠かせないのが「もち花づくり」です。紅白のもちを細長く伸ばして小指の先くらいの大きさにちぎってクロモジの枝に丸めて飾ったものが「もち花」です。飾った後はもち花を揚げてあられにしておやつにしました。お正月の料理としては大根、ニンジンなどの野菜を中心とした精進料理である「福煮」を食しました。

巻き寿司は丹後ちりめんの「巻き取る」との関係もあり、田植えの後に食されていたといわれています。かつては、田植えの後の「さなぼり」にはせりを具にした巻き寿司が春だけのごちそうとして出されました。稲刈りの後の「いのこ」など集まって食する時には、うどん、ばら寿司、もち、おこわを用意していました。

また伝統的な「へしこ」、「あごの団子汁」、夏祭りの「あんころもち」、「茶がゆ」、「ぐら汁」、「はばご飯」、法事の際の「羅漢和え」などの郷土料理も地域で大切に継承されています。間人ガニに代表される魚介類は、本市の代表的な食文化をつくりだすとともに、重要な観光資源ともなっています。本市の百歳長寿を支える食文化は、現代の私たちの暮らしを彩る生活文化であるといえます。

(6)無形の民俗文化財(口承文芸・民間伝承・民謡・方言等)

人から人へと口伝えで伝わる昔話、民謡、伝説、伝承が豊富に残り、「丹後弁」と呼ばれる方言で語られていた点が特徴です。

かつての丹後半島の家々では、囲炉裏を囲んだ団らんのひとときに、子どもたちが祖母などに昔話を語ってほしいとねだる姿がありました。高度経済成長期による生活風習の変化の中で、昭和40年代以降、各地で昔話を採録し、記録として残す作業が行われました。これらの記録は、すでに失われているものが大半ですが、豊かな昔話の様相を今に伝えています。

また日常の労働や生活の場では、自然に出てくる労働歌や、遊びの歌などの民謡が口ずさまれました。戦前より採録が始まり、昭和50年代にかけて採録された豊かな神事唄、労作唄、祝唄・酒宴唄、盆踊唄、子供の唄などは、高度経済成長期を境にして急速に失われた民謡の様相を今に伝えています。

また伝説・伝承が多く残る点は大きな特徴です。特に女性に関わる伝承が多い点は特筆できます。

最も古いものは、奈良時代の『丹後国風土記』逸文に記された羽衣天女で、神が天に帰ることなく神社に祀られるという内容です。天女ゆかりの地としては、比治山（磯砂山）山頂の真奈井（女池とされる）、奈具神社（弥栄町船木）、乙女神社（峰山町鱒留）、多久神社（峰山町丹波）などがあります。

浦嶋子と乙姫の伝承は各地にあります。『丹後風土記』逸文では主人公浦嶋子と与謝郡筒川村（現在の伊根町）の「日下部首等の祖」と語っており、先祖の由来を語る内容です。市域には網野町に浦嶋伝承が伝わり、網野神社（網野町網野）、嶋見神社（網野町浅茂川）には浦嶋子を、その近くの西浦福島神社には乙姫を、六神社（網野町下岡）には嶋子と乙姫を祀っています。

間人皇后は、穴穂部間人皇后と呼ばれ、用明天皇の後です。地元では「はしうどころごう」と呼ばれ、その名から、丹後町間人の地名の由来が伝承されています。江戸時代後期の記録にあらわれ、足洗いの井戸などの伝承地があります。

『日本書紀』や『古事記』には、中央の王権と婚姻関係を結んだ丹後出自の女性たちが登場します。「丹波の五女」は、川上摩須郎女と丹波道主命との間に生まれた姫たちと伝え、日葉酢媛は垂仁天皇との間に倭姫命や景行天皇を産んだと記されます。川上摩須郎女の父親の川上摩須が創建したと伝える神社や屋敷跡の伝承地が残っています。

大宮町五十河の小町伝承は、小町を開基とする妙性寺があり、『妙性寺縁起』などに小町が亡くなった地と記されます。小町の墓、位牌、小町が使用した鏡と椀などの資料は17世紀末～18世紀初頭のものであるため、五十河の小町伝承は、平安時代の小町ではなく、村の火災・難産をなくす江戸時代の遊行の霊能者と考えられます。

網野町磯は、静御前の母である磯禪師の出生地と伝えています。延宝5年(1677)の『与謝巡遊記』がもっとも古い記録で、静神社や船かくし岩などの伝承地があります。

弥栄町味土野の細川ガラシャ夫人隠棲地は、天正10年(1582)、父明智光秀の謀反の後、夫細川忠興の命により2年間蟄居した地と伝えています。夫人が隠棲した女城跡や家臣がいた男城跡などの伝承地があります。

このほか、丹後・丹波一帯には、聖徳太子の異母弟の麻呂子親王による鬼退治伝承が広く伝わっている点も特徴です。市域には、竹野神社(丹後町宮)に伝わる鬼退治を描いた等楽寺縁起、齋明神縁起といった絵巻のほか、円頓寺(久美浜町円頓寺)、願興寺(丹後町願興寺)の木造薬師三尊像など麻呂子親王の七仏薬師と伝える仏像、鬼を閉じ込めたと伝える立岩(丹後町竹野)などがあります。

市域にはほかに、八尾比丘尼伝承や寺院の縁起伝承があります。またこれらの伝説・伝承をわかりやすく伝えるため、羽衣天女や小野小町などは絵本が作られています。

これら昔話、民謡、伝説、伝承は、「丹後弁」で語られました。「丹後弁」は、大きくは西日本方言地域に属し、方言区画論では山陰地区方言に属しています。その中で久美浜町の方言は、兵庫県北部の但馬方言に近いので、それ以外の京丹后市域、与謝野町域のものとは異なります。またアクセントという面では、東京式アクセントをもつ中国地方の東端にあたっており、現在の宮津市域の中を境目にして東側は京阪式アクセントとなります。同じ京都府内ではありますが、丹後弁は京ことばとは全く異なるものといえます。大きな特徴として、「赤い→アキヤー」、「悪い→ワリー」など二重母音が拗音化する点があります。これは、尾張弁(愛知県)に近い特徴です。

4-4. 記念物

(1) 遺跡

市域に人々が暮らし始めるのは、旧石器時代です。その後、縄文時代早期には、10遺跡ほどが知られています。弥生時代に入り最初にできたムラは、瀧湖のほとり、微高地上にある竹野遺跡です。遺跡からは珍しい陶埴(土笛)や遠賀川式土器など様々な遺物が出土しており、当時の生活が想像できます。弥生時代中期になると大規模な集落が次々と誕生していきませんが、本市では、途中ヶ丘遺跡(峰山町長岡、新治)や奈良・奈良岡遺跡群(弥栄町溝谷)などが代表的なものとして挙げられます。奈良岡遺跡では中国大陸などから入手した原料を使い鍛冶や玉づくりが行われていました。弥生時代中期～後期には、丘陵上に墳墓群が営まれるようになり、国内最大級の赤坂今井墳墓(峰山町赤坂)などの有力墳墓も築造されます。埋葬施設からは、ガラス玉、朝鮮半島からの鉄製品などが出土してお

り、この時期の大陸との交易や、国内での人の動きを知ることができます。

丹後地域は、当時、中央政権からの距離も遠く、最初期の前方後円墳は確認されていません。市域において、古墳時代開始前後の地域の覇権を握っていたのは、弥栄町と峰山町にまたがる大田南古墳群を築いた勢力であったと考えられ、ここからは、全国的にも貴重な中国鏡が出土しています。古墳時代前期後半から中期初頭にかけては、日本海側最大の網野銚子山古墳（網野町網野）や神明山古墳（丹後町宮）などの大規模な前方後円墳が築造されます。これらに蛭子山古墳（与謝野町）を加えて日本海三大古墳または丹後三大古墳と呼びます。これらの古墳の築造から、丹後地域にも独自のアイデンティティーを持つ首長を中心とした地方勢力（通称「丹後王国」）が存在していたことが想像できます。5世紀前半の丹後では、大型前方後円墳から中小の古墳まで、幅広い墳墓の階層が認められ、丹後の地域力が極めて充実していたことを物語ります。6世紀以降は、小規模な古墳で横穴式石室や横穴など新しい形式の埋蔵施設を持つようになり、伝統的な前方後円墳の築造は6世紀中葉～後半の新戸1号墳（大宮町奥大野）をもって終焉を迎えます。このころには、墳丘よりも石室の大きさが被葬者の階層的地位を示す傾向にあり、副葬品も豊富に埋葬されています。6世紀後葉以降には大成古墳群（丹後町竹野）のように、横穴式石室を持つ古墳が十数期集まって群集墳を形成する事例が現れます。また、古殿遺跡（峰山町古殿）や遠處遺跡（弥栄町鳥取）などの古墳時代の集落遺跡からは、豊富な木製品や製鉄関係の遺物等が良い状態で出土しています。

飛鳥時代に入っても、引き続き古墳や横穴墓が築造されました。特に、上野2号墳（丹後町三宅）は、7世紀中葉に円墳から方墳に造りかえられた珍しいものであり、畿内の終末期古墳の動向を敏感に反映しているといえます。7世紀末からはほとんど墓が見つかっておらず、代わって、仏教寺院の造営が始まります。飛鳥時代の寺院としては、市域では俵野廃寺（網野町俵野）が確認されているのみです。俵野廃寺は、海岸にも近い立地であり、海上交通に携わる地元の勢力の元で寺院が営まれていたと考えられます。平安時代に入ると、縁城寺旧境内遺跡（峰山町橋木）など山林寺院もみられ密教の普及がうかがえます。飛鳥時代以降は、大陸から様々な技術がもたらされて産業も興隆します。新宮窯跡（大宮町新宮）や阿婆田窯跡（大宮町善王寺）からは須恵器窯や瓦などが出土しています。加えて、京丹後市は海上交通の要衝でもあったため、海岸部に近い横枕遺跡（網野町島津）などでは中国産の陶磁器など珍しいものもまとまって出土しています。戦国時代には市域全域に数多くの山城が築城されています。

また、「月の輪田」は豊受大神がはじめて田植えをされた場所とされ、稲作発祥の地と伝わっています。田は三日月の形をしており、現在は二箇区月の輪田保存会によって保存と活用が図られています。

(2)震災記念碑

大正14年（1925）の北但馬地震や昭和2年（1927）の北丹後地震で大きな被害を受けた本市には、震災の記憶や教訓を後世に伝えるため、震災記念塔や震災供養塔が建立されました。戦前は、各地で慰霊祭や法要が行われていましたが、戦時中に中断し、戦後になるとほとんど行われなくなりました。その中で、常徳寺（大宮町口大野）では、現在も毎年3月7日に震災供養行事を行っています。

(3)名勝地

海と山に囲まれた本市は豊富な景勝地を有しており、琴引浜や五色浜、小天橋、立岩などの海の景観、無明の滝や磯砂山、かぶと山、女池などの陸の景観、ともに古くから人々の心を癒してきました。

た。また、公園・庭園として、宗雲寺庭園（枯山水庭園）や丹後ちりめんの発展に尽力した吉村伊助氏の別荘である桜山荘の庭園など見ごたえのあるものが市内でも見られます。さらに、近年、人々の生活の中で、丁寧に手が加えられ愛されてきた市民憩いの公園や桜並木なども本市の重要な名勝地と言えます。

(4)動物・植物・地質鉱物

本市は日本海に面し、屏風岩や海岸段丘、離湖、丹後松島、経ヶ岬等の多彩な海岸地形や、鳴き砂や五色浜の円礫岩層などの貴重な地質等が数多く観察できます。また、郷村断層は国の天然記念物に指定されている断層ですが、昭和2年（1927）に丹後震災を引き起こし多くの人命や財産を奪い、自然の脅威を伝えています。

市域には、豊かで美しい水環境を住処としてアベサンショウウオや宇川の鮎をはじめ様々な生物が生息しており、久美浜湾では冬場になるとオオハクチョウやコハクチョウの飛来もみられます。

植物を見ると、寺社を中心に巨樹・名木が数多く分布しており、中には浦島伝承にまつわる皸榎など、地域の歴史を伝えるものもあります。また、内山のブナ林やシイ林、平海岸海浜植物群自生地など貴重な植生も本市の各地で見られ、適切に保存・管理されています。

4-5. 伝統的建造物群

農村集落として、丹後型民家の平面形式を持つ、伝統的な民家が分布する五十河の集落が挙げられます。伝統的な民家を多く残すことに加え、「川井戸」を利用した伝統的な生活環境が残っている点で貴重であるといえます。一方漁村集落は、半島の長い海岸線上に沿って分布し、袖志・竹野・塩江等13の集落で伝統的な集落形態が見られます。

4-6. 文化的景観

海に関係する景観として「久美浜湾カキ養殖景観」と「久美浜湾沿岸の商家建築群と街なみ景観」が府選定文化的景観となっているほか、間人海岸や袖志の棚田など特徴的なものが挙げられます。内陸部の景観としては、「河内梅」など古くからつづく農業景観が挙げられます。

また、本市の伝統産業にまつわる景観として「網野・弥栄の機屋の町並み」が挙げられます。丹後ちりめんの工場の多くは、住宅に小規模な機屋を併設して行う家内工業的な形態であり、網野町浅茂川や弥栄町和田野地区には、こうした機屋が点在しています。

4-7. 環境保全地区

環境保全地区は自然環境と文化財が一体になって優れた歴史的風土を形成している地域の事を指します。本市では、神社や遺跡、動植物などが一体となった美しい歴史景観が各地に残っていますが、その中で、多久神社や竹野神社などの境内地は、府の文化財環境保全地区に決定しています。